

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		水源地域等		路河川名等		裾花川		
事業毎の通番		2		市町村名		長野市		
事業目的		平成28年5月4日に林道大川線へ4m程の落石があり、奥裾花自然園の開園に伴う一般車両への事故の危険があった。林道大川線を通行止めとし、緊急委託業務により調査したところ、斜面内には不安定岩塊が4個存在が確認され、調査によりこの3個の浮石を除去し落石を確認した。この調査の中で、山腹上部には風化・亀裂の進んだ岩盤が露出しており、また、不安定な浮石も多く、再崩落するおそれが高いことが判明し、現地調査を実施を実施しているところである。下方には奥裾花自然園の唯一のルートである林道大川線があり、山腹工(落石予防工)を実施し、不安定な山腹面の安定を図り、下方保全対象の保全を図る。		箇所名(ふりがな)		奥裾花(おくすぼな)		
事業概要	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上(災害に強い森林づくり)		事業実施の根拠法令等		森林法		
	関連する事業、計画等	なし						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	林道大川線(利用区域 6,411ha)						
	着手年度	平成29年度	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	3.23	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	山腹工 0.17ha 森林整備 6.27ha	落石固定工 1,000㎡、吹付工 700㎡	本数調整伐 5.97ha、植栽 0.30ha	80,000	40,000	36,000	4,000	
年度事業内容(主な工種)	山腹工 0.07ha 吹付工 700㎡			30,000	15,000	13,500	1,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	山腹斜面の安定、落石の防止 保全対象(林道)の保全						
	間接的効果(定量的・定性的)	林道利用者の安全・安心の確保						
評価の視点	必要性	○人家戸数:	無		評価		C	
		○公共施設数:	1ヶ所 林道					
		○災害時要援護者関連施設の有無:	無					
		○保安林・林業用施設:	有 100%(水源涵養 S46.3.29)、林道大川線 6,411ha					
	重要性	○過去の災害履歴:	有 平成28年5月4日落石災		評価		B	
		○交通遮断による地域経済への影響:	影響度中 下方に林道大川線					
	○地域防災計画上の位置付け:	—						
効率性	○費用便益比(B/C):	3.23		評価		A		
	○事業期間:	3年 H29~H31						
	○工法等の比較検討:	有 落石対策工の工法検討						
	○流域の総合調整:	有 治山事業で実施						
緊急性	○流域の地形、地質:	第三紀層泥岩・砂岩		評価		B		
	○平均渓床勾配(平均山腹勾配):	平均山腹勾配38°						
	○下流の堰堤等の整備状況:	無						
	○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:	山腹崩壊587-31(C)						
計画熟度	○事業情報の共有:	平成28年5月6日、長野市との合同調査 打合せ		評価		A		
	○地域の取り組み:	市町村からの要望箇所						
	○地域の合意形成:	合意済。						
	○住民との協働:	事業計画段階から住民参画、事業協働						
部意見	計画地下方には観光のため一般車両が通行する林道があるため、早急に落石対策を行う必要がある。	行政改革課意見	山腹上部には風化した岩盤や浮き石が多く存在し、今後の降雨等により崩落の恐れがあるため、重要性が認められる。	評価結果	総合評価		O	B

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



不安定斜面 露岩



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地域の地質は、第三紀層泥岩砂岩であり、山腹直下には奥裾花自然園に通じる林道大川線がある。山腹上部より、過去度々落石があったが、平成28年5月4日に直径4m級の落石があった。現地調査を実施したところ、山腹上部には風化・亀裂の進んだ岩盤が露出しており、また、不安定な浮石も多く、再崩落するおそれが高い状況である。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成28年5月6日、長野市との合同調査 打合せ
③事業説明等の経緯	平成28年5月6日、長野市との合同調査 打合せ
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	長野県名勝地 奥裾花渓谷としての景観配慮 当該地は、林野庁が選定した「水源の森百選」の一つである。
⑥地域活性化への影響と配慮	治山事業施工により、保全対象(林道・河川)を保全し、林道通行車両の安全・安心を図る。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36-45-44.4 東経:E 137-59-15.8